

日本の碁

平成 26 年 9 月 14 日 発行

第 4 号

全碁協が目指す普及



8月18日、新理事による第1回理事会が新宿事務所においておこなわれました。そのなかで、最も大きな論点となったのは、「普及の基本的な視点」です。

普及といえば、「囲碁を知らない人に教え、囲碁のすばらしさを実感してもらおう」が一般的な解釈でしょう。しかし、「なぜ囲碁なのか」「囲碁のすばらしさ」とは何なのか

については、明確な指針がないままに普及の大義を掲げているように思われます。

全碁協では囲碁のすばらしさを分析し、下欄のような「目的と事業」を設定しました。まだ不十分かもしれないませんが、これによって「囲碁が強くなる」目的にかたよらず、「囲碁を楽しむ」「囲碁を人生の強化剤とする」目的を前面に押し出す準備が出来てきたようにも感じられます。囲碁関係のボランティア団体や、仲間うちの小規模碁会等々、多くの組織と連携できる可能性も広がりました。これを延長すれば「なぜ囲碁なのか」の問いにも、おのずから答えが出てくるのではないのでしょうか。

まだまだ多くの意見があるかとも思います。とくに正会員の皆様は、周辺の声にも耳を傾けて、掬い上げた意見を理事会に伝えていただきたいものです。

(文責、相場)

目的と事業

定款の目的と事業は次の通りです。確認しておきましょう。

第3条(目的) 当法人は、広範囲の年齢層に囲碁を普及し、その効用を啓発して人間形成に役立てることを目的とする。

第4条(事業) 当法人は、前条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。

- (1) 自己開発による能力向上、視野拡大、挫折に対する耐性の修練などのための啓発事業。
- (2) レクリエーション効果による精神的身体的影響の調査とその周知事業。
- (3) 目的設定による気力増進、認知症発生抑制に関する調査研究とその周知事業。
- (4) 世代間、地域間の交流を促進する断絶解消事業。
- (5) 競技囲碁の発展を主とする団体と一線を画しながら、当法人の目的に合致する部分での連係事業。

が所有するサーバを利用する可能性があります

以上のような大変好意的な提案でした。ただしコンピュータに詳しい人は理事のなかにおらず、もっと基本的な説明を受けなければならぬようです。また会員の方も、不明の点があれば近くの詳しい人に聞いてください。

3、塩崎監事の辞任と後任人事について
菊池理事長一任となりました。

4、各理事の職務分担
次回理事会に各理事が案を提出し、調整することになります。それまでは、部分的な現状維持体制です。

5、事務局設置の件
現在、基席秀策の和室に置かれた事務所は、ロッカーと固定電話があるだけです。間もなく事務量が増えるのは必然であり、早急に事

務所を開設し、事務局を設置して専従事務局員を置かなければなりません。とはいえ、現状では予算的に無理であり、もう少し知恵を絞らなければなりません。この件に関して、会員中になにかいい案をお持ちの方がいないでしょうか。

6、「囲碁何でも相談室」設置の件
碁会所の開設や廃止問題について、桑原氏のもとへしばしば相談がくるそうです。そのときどきに対応し、仲介しているとのことですが、個人的に対応しきれないケースが生じる場合も考えられ、いっそ「相談室」を理事会所管にすれば、広範な質問に対応できるのではないかと、桑原氏の提案がありました。あるいはHPでそうした「相談室」を開設することも考えられ、前向きに検討する、というのがいちおうの結論です。

7、その他
他に議論されたのは、囲碁普及

に関する根本的な姿勢、会員および組織の拡大方法、会報の広告募集、他組織との関係、定款改定、正式議事録作成など多岐に涉りました。

しかし、問題はあまりに多く、時間があまりにも少ない。ペンディングされた事案が多かったのは残念です。

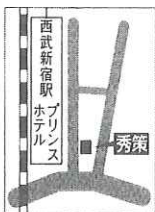
いちおう、理事会は二、三ヶ月に一回のペースで開催しようという了解はありましたが、初期段階ではもつと密度濃く開催し、論議する必要があるそうです。

もしあとで変更しなければならなくなっても、基本的な態勢が定まらなければ方向違いに暴走する恐れがあります。また、理事会だけで専断しては、視野が狭くなる恐れもあるでしょう。

会員ひとりひとりの発想と、会員全体の協力がどうしても必要です。新しい組織、新しい文化を作っていくためには、すべての会員がその気にならなければなりません。

すぐに見つかります、良き囲碁仲間!

◆強豪トーナメント「水曜会」毎週水曜日PM5:30～
8名様によるトーナメント戦 (参加費3000円 賞金制)



◆腕試し真剣指導碁
一局2000円 (但し、お勝ちの時は無料)
(例) 初段八子 二段七子 三段六子
四段五子 五段四子 六段三子

◆インターネット対局 (幽玄の間会員 / タイセム会員)

03-3232-8745

<http://www9.plala.or.jp/bohno/>
新宿区歌舞伎町1-24-2 西武ビル6F

24時間営業 (但し、日曜夜10時閉店 / 月曜朝11時開店) いつでも打てます

◆初級者いつでもお打ちになれます

◆女性、学生、大歓迎 (席料割引)

◆毎月リーグ戦あり (参加費1000円)

◆土日、祝日は先着8名様による
トーナメント戦あり (参加費無料)

◆座敷もあります (家庭料理50品目以上 / ドリンク類種々あります)

新
秀
策
24時間碁が打てます

会員名簿

8月末現在、正式に加入を表明している正会員、賛助会員、賛同会員の名簿です。順不同。

正会員

菊池 康郎【緑星囲碁学園】

(全日本囲碁協会代表理事)

東京都中野区

03 (3360) 1555

塩崎 泰朗【東山囲碁サロン】

全日本囲碁協会監事

東京都目黒区

03 (3713) 4800

山口 晋【前下北沢囲碁セン

ターオーナー】

全日本囲碁協会理事

東京都世田谷区

03 (3429) 8257

相場 一宏

(全日本囲碁協会理事、囲碁ラ

イター協会名誉会長・囲碁

内久根孝一【いずみ囲碁ジャパン】

東京都中央区

03 (5202) 6093

史会運営委員・天元戦新人

王戦観戦記者)

茨城県つくばみらい市

0297 (58) 8254

桑原 青人【碁席秀策】

全日本囲碁協会理事

東京都新宿区

03 (3232) 8745

平田 信子【平田碁会所】

埼玉県蕨市

048 (431) 8496

藤崎三佐雄【津田沼囲碁クラブ】

千葉県習志野市

0474 (75) 5255

須崎 善治【丈和】

東京都東村山市

0423 (95) 4635

堤 加子【燦々】

東京都国立市

0425 (76) 5591

内久根孝一【いずみ囲碁ジャパン】

東京都中央区

03 (5202) 6093

滝沢 千晴【新宿囲碁センター】

(NHK学園・囲碁学苑講師)

東京都新宿区

03 (3349) 4977

広瀬 恵一【囲碁サロン欄柯】

東京都目黒区

03 (3715) 8610

牛山 修【囲碁サロン道玄坂】

東京都渋谷区

03 (3780) 3691

及川 尚【囲碁サロン絆】

東京都杉並区

03 (6768) 1511

大沢 完治【囲碁サロンさいたま】

(NPO日本青少年囲碁協会理事、

NPO埼玉県少年少女囲碁協会理事)

さいたま市中央区

048 (857) 1518

古長 俊雄【日本橋本町囲碁サロン】

東京都中央区

03 (3639) 1811

樋口純一郎【南越ヶ谷囲碁クラブ】

埼玉県越谷市

048 (988) 9646

賛助会員

野口雅人

内野真理

坊野恭子

二火会 (吉田慎次郎)

出口雄司

藤森昭治

平田興

川村麻紗子

賛同会員

碁柳 会 (松本昭男)

飯塚 あい

香山 由志子

小林 千鶴

青木 勝

今井 速人

光井 一矢

神田ソーシャル棋苑 (福井三男)

東京囲碁会館 (安永・久保田とし子)

人形町囲碁倶楽部 (喜代田高明)

駒沢大学囲碁部OB会 (曾我部敏行)

秋商30会 (秋山文平)

◎会員の特典

資格については理事会報告で。特典はさらなるプラスを理事会で検討中です。

囲碁の歴史

光井 一矢

囲碁史会会員



初代本因坊 (三)

本因坊算砂と徳川家康について貴重な資料が発見され、平成十九年に囲碁史研究家によって解説されたので紹介したい。

廿七日

於 七条 御門跡 他徳 五目

廿九日

於 因幡法印 御成 自徳番

十二目 自勝

八月二日

於 加賀大納言殿 御前 他徳

十一日 自勝

同日

自徳番 八目 自勝

同日

於 新城駿河殿 御前 他徳

此一昏(紙)元祖本因坊算砂

法印棋帳之中天正文録

年間之筆記也附属西村

広良丈尤可為家珍者也

寛延己巳年(一七四九)

十二月 井田道祐

書判

この文書は本因坊算砂棋帳の断簡に、井田道祐(本因坊道知門下)が奥書し、道祐の門人・西村広良に与えたもの。

前半の七十六文字は算砂自筆の対局覚書ともいべきもので、大変貴重なものである。紙が継がれた後半は井田道祐の筆。

まず、後半の部分だけ読み下しておこう。

「この一紙は元祖本因坊算砂法印の棋帳のうち、天生文禄年間の

筆記なり。西村広良丈(丈は尊称)に附属し、もつとも家珍(家宝)たるべきものなり。寛延二己巳年(一九七四)十二月 井田道祐」

算砂の棋帳文書を詳しく紹介したいところだが、紙数の関係で興味深い部分だけを紹介する。

文書の中には加賀大納言の徳番で自十一目勝ちとある。加賀大納言は前田利家のことである。さらに駿河殿の徳番で対局したことが記されているが、結果は不明である。前田利家の加賀大納言に従えば家康は江戸内大臣殿もしくは江戸内府殿となるが、これは算砂と家康の関係から馴染めない。算砂にとって家康と利家の親疎の差なのかもしれない。

手合割のことについて触れよう。徳番とは互先などのときに有利な側、つまり黒番であることを示す。となると、家康や利家は算砂と互先で、このとき黒番であったという事になってしまう。

この文書が発見されたとき、家康と算砂は互先だったのかと思われたが、これには当然ながら疑問があり、異論もある。

ここに二つの異論を紹介する。徳番を先番と見ると算砂と利家、家康とは互先のようなのであるが、これは置碁にも当てはまるのではないかということ。五子や四子の手合だったら、四子なら算砂が徳番、五子なら利家や家康が徳番というもの。

もう一つの見方もある。「加賀大納言」も「新城駿河殿」も利家、家康自身と対局したということではなく、その御前で算砂がほかの碁打ち、たとえば利玄などと対局したのではないかというもの。これなら徳番の意味もわかる。後者の意見が有力なのではないかと思われる。なお、他徳は相手が徳番、自勝は自分の勝ちという意味。覚書なので、そうした表現を使っている。

子規の碁句

囲碁は川柳によく馴染み、佳句も少なくありませんが、俳句には不思議にフィットしないみたいです。ためしに正岡子規の囲碁関連俳句を拾ってみましょうか。

子規は約二万句を詠んだとされますが、囲碁の句は三十三です。

碁丁々荒壁落つる五月雨

(のちに自身で抹消)

短夜は碁盤の足に白みけり

蚊のむれて碁打二人を

食いにけり

僧や俗や春の山寺碁を囲む

碁盤あり琴あり窓の竹の春

雲ぬれて春の山寺碁をかこむ

涼しさや雲に碁を打つ人二人

丁々と碁を打つ家の夜寒哉

下手な碁の四隅固める日永哉

碁僧碁を打ち詩僧詩を吟ず月

昼人なし棋盤に桐の影動く

野狐死して

尾花枯れたり石一つ

冷かや仏灯青く碁の響き

碁の音の林に響く夜寒哉

劫に負けてせめあいになる

夜長哉

いろいろの変化出てくる

夜長哉

月さすや碁を打つ人の

うしろ迄

碁に負けて厠に行けば月夜哉

かぎになり竿になる手や

わたり鳥

碁の音や芙蓉の花に

灯のうつり

焼栗のはねかけて行く先手哉

淋しげに柿くふは

碁を知らざらん

勝ちそうになりて栗むく暇哉

蓮の実の飛ばずに死し

石もあり

碁に負けて忍ぶ恋路や春の雨

真中に碁盤据えたる毛布かな

日一日碁を打つ音や今年竹

古家や狸石打つ落葉の夜

修竹千竿灯漏れて碁の音涼し

碁の音に壁の落ちけり五月雨

俳句の他に十五歳の頃、唸鯉生の号で川柳二句

白石を持つ碁打は黒人なり

黒石を持つ碁打は白人なり

これというのは一、二句だけ。

碁を知らないせいもあってかあまり冴えません。囲碁を論じた文章も二、三ありますが、みな正鵠を得ているようではないのです。

碁を打たなかつたということは次の文章でも知られます。

「病床瑣事」(明治32年、『ホトトギス』載)

(前略) 古き人の隨筆読み尽して、又日を消すべき術無きに困じて、又日を消すべき術無きに困じて、ふと碁の定石を知らんと

思ひなりぬ。吾いまだ碁を知らず。今はた碁を学んで人と勝敗を争ふの心も無けれど、定石を知るは幾何学の理論を読むが如き面白味あらんか、初歩の本など備り来り、紙の碁盤、土の碁石、丁々といふ音もなく、いと淋しげに置き習ひぬ。忽ち覚え忽ち忘れ、何のことわりとも知らず、黒、白、黒、白と心も移らず遊びけるを、さと吹き入る、風に碁盤飛び碁石ころげて、昔の間に帰りける、それも涼

しや。句とちがつて美しい文章です。

俳句や川柳、あるいは短歌などの短詩形で碁を詠むには、やはりある程度の碁の力が必要なのかもしれません。

人によつては碁そのものでなく勝負に焦点を合わせるケースもありますが、「碁の句」として見る場合には、いくぶん味わいに乏しくなるようです。むしろん詩文の力が優先するでしょうが……。

子規周辺の文人の作品を二、三紹介。

碁の客を待間の菊の根分哉

内藤鳴雪

新蕎麦や碁筭なき盤も横はる

河東碧梧桐

障子越し碁の音聞え梅の花

高浜虚子

この一文は『囲碁史学会報』第40号(平成25年11月)、「明治期文芸の碁話」(無扇生)を参考にしました。

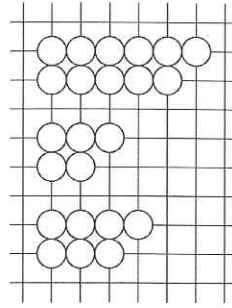
(補陀子)

「囲碁の医学的効用」は、今月お休みします!!

ちよつと道草

碁石パズル

三山崩し



問題図

碁石を任意の数だけ、三カ所に分けておきます。これを一カ所から好きな数だけ取り、交互に繰り返して、最後の一個を取った方が勝ち。問題図の13、5、7の三山から始めるとして、どの山から何個取ればいいでしょうか。多くの場合、必勝法があります。

まずそれぞれの山を、1および2の倍数に分けて数えます。たとえば13なら、8+2+1。5の場合なら、

4+1。7の場合なら4+2+1です。それを、2の倍数のかたまりが何個あるかと数え、そのかたまりを常に偶数個に保てば必ず勝てるのです。

問題図なら、上段の11個から9個取れば残り2個。中段の4+1と、下段の4+2+1と重ねて考えれば、2の倍数のかたまりは4が二つ、2が二つ、1が二つですべて偶数となり、以後もその操作を続ければ、最後の1個は必ず手中にできます。

2、5、7の状態で、相手が2から全部取って5と7になれば、7のかたまりから2個取って5と5にすればいい。相手が一方の山から任意の数を取っても、つねに同数に保てばいいだけのこと。思ったより優しく勝てるのがわかるでしょう。ただし、運が悪ければ、最初に三山に置いたとき、相手が必勝の形になっていることがあります。たとえば5、7、2の組み合わせでは、先手必敗ということになります。

囲碁川柳

八月例会から

ここはどこ詰め碁が解けて

気がついた (良子)

電車乗り越したのでしょね。放

心状態なら、わたしはだれとまわり見わたす、ということになります。

碁敵に今年もザルソバ

お中元 (裕石)

お返しには、たぶん冬には樽柿が来る、でしょう。碁の冗句に、信州樽柿へたなりに固まる、というのがあります。

解説で愚形と言われ

妻を見る (旬之介)

奥さんと一緒にテレビ観戦の場面でしょうか。体形は愚形。しかし、

石も女房も見た目じゃないよ、と弁

護している人もいれば、愚形は「局愚

妻は一生、と嘆いている人もいました。

兼題は「虹」でしたが、みなさ

ん作りにくかったらしく、さまざま「ニジ」が飛び出しています。

まだ二時か三時になったら

碁に行こう (ぐずみ)

くだらなすぎて笑える、の評あり。教養がこびつとにじむ

囲碁川柳 (K介)

こびつとは山梨方言で、しつかり

という意味だそうです。だが、教養あれど句はつまらない、とばつさり。

飯よりも囲碁好きな娘も

二児の母 (K介)

名句かとも思いますが、「飯」の語が男くさいので、ケーキより、にじり寄り白の攻め手に

おびえ負け (野菊)

ついに持碁よくぞここまで

持って来た (花六)

みなさんだいたい苦労しています。

まともな虹での佳句は、

碁で架けた虹は七つの

海渡る (斜凡)

でしょうか。友好囲碁から世界平和へ、ならば素敵ですね。

喫煙大会はいかが

愛煙生

最近の碁席はおおむね禁煙だ。喫煙スペースがあればいい方で、廊下に出されたり、屋外に出されたりする。都会の、大きな碁席ほどその傾向が強い。

むろん、禁煙にすることで、女性や子どもを呼び込みやすくなるだろう。しかし、煙草を吸えないのでは、と碁席を敬遠する人も少数ながらいる。

とすれば、時には愛煙者囲碁大会が開かれてもいいのではないだろうか。常時碁席として使っている場所ではむずかしければ、喫煙できる場所（テント張りでもかまわない）を確保してから多くの人に呼びかけ、非喫煙者締め出しの大会を開くなどが洒落れている。

賞品は好みの煙草数ヶ月分。Jに依頼すれば寄附してくれるかもしれない。

性別の大会があり、年齢別の大会がある。愛煙者のみの大会があってもおかしくはない。正会員のうち、だれか思いきって企画する人が出て来てほしいものだ。

囲碁史会

NPO準備会

囲碁の歴史に関しては、分からないことが多い。これまで、通史としては『坐陰談叢』（1940年、安藤如意）、資料集としては『囲碁語園』（2009年、増田忠彦）があるのみで、ことに『談叢』は江戸時代から大正時代までの人物に偏っていた。

その行き詰まりを打破しようと7年前に組織されたのが『囲碁史会』（会長 谷岡一郎、運営委員 相場一宏、秋山賢司）で、年6回研究会を開き、会報も45回を数えている。本紙に『囲碁史散歩』を連載している光井一矢氏も囲碁史会員の一人だ。

しかし、任意団体としての活動に限界を感じた囲碁史会は、NPO法人として新たに出発すべく、いま準備を進めている。その目的は「囲碁の歴史に関する調査研究と囲碁関連記録の収集・保存を主たる目的とし、調査研究・資料の公開をおこなって囲碁文化の位置付けを明確にする」とある。

またその事業として、

- 1、囲碁の歴史に関する調査研究（社会史、普及史、技術史）
- 2、囲碁関連記録の収集保存。（中国関連文献、古文書解読）
- 3、囲碁文化の位置付け。（他ゲームとの比較、精神・身体への影響調査）
- 4、調査研究内容、資料との公開（文庫設立、講演会、書籍出版、研究者育成）

などなどである。現在は日本棋院や大阪商業大学の助力と会費によって維持されている会だが、そこから一歩踏み出すことについては大かたの会員の了承を得た。あ

とは手続きだけである。

囲碁文化の厚みを増すためにもぜひ発展してほしい団体だ。将来は全碁協として、なにか協力できる部分があるかもしれない。

編集後記

今月はなんとといっても、新理事による今後の方針決定がメインの記事になります。ただし、決定した方針をどのように実現していくかは、理事会ばかりでなく個々の会員の工夫と努力にかかっていることも確かです。（相場一宏）

『日本の碁』

第4号

発行人 菊池康郎
編集人 相場一宏
発行所 全日本囲碁協会
〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町一〇二四〇二
西武ビル六F
印刷所 あるふあプラス
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場一〇二九〇二二
〇三三三〇九八〇一一